

校外動物飼育実習 I

AC コース専門科目 1年 前期・後期 140時間 5単位 実習 必修

講師 葛西宣宏

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1年生 ACコース
学習目標	本実習は提携実習施設での授業を通して、動物の飼育・管理・展示における総合的な技術を習得させ、現場での作業の流れを学ぶ。次に実習先でのマナー、チームワーク、コミュニケーション等を学ぶ。様々な実習先での体験を通し、就職活動の幅を広げる。
学 び の キーワード	飼育法、給餌、排泄、健康管理、温度、湿度、飼料管理、動物舎（施設、付帯設備） 挨拶、言葉遣い（言葉の遣い分け）、身だしなみ、接客、コミュニケーション、チームワーク
準備学習及び復習の内容・履修条件	実習先で習った事をメモに残しノートを作成する。それを見返し実習先でミスをしないようにする。
授業方法	観光牧場では、家畜や馬などの大動物からエキゾチックアニマルについての飼育管理を屋内外で学ぶ。 アニマルカフェでは、エキゾチックアニマルや爬虫類、猛禽類を中心に飼育管理を屋内で学ぶ。 水族館では、淡水魚を中心に魚類の飼育・展示について学ぶ。 全ての実習先で、接客やコミュニケーション、企業での仕事の流れを学ぶ。
成績評価基準	実習授業への出席、レポートの提出で評価をする。授業内容はスケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	授業内容
1	実習①
2	実習②
3	実習③
4	実習④

5	実習⑤レポート確認
6	実習⑥
7	実習⑦
8	実習⑧
9	実習⑨
10	実習⑩レポート確認
11	実習⑪
12	実習⑫
13	実習⑬
14	実習⑭
15	実習⑮レポート確認
16	実習⑯
17	実習⑰
18	実習⑱
19	実習⑲
20	実習⑳レポート確認

校外動物飼育実習Ⅱ

AC コース専門科目 2年 前期・後期 367時間 12単位 実習 必修

講師 葛西宣宏

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	2年生 ACコース
学習目標	本実習は、提携実習施設での授業を通して、水族動物・動物・エキゾチック・爬虫類等の飼育における自分の適性を確認できるようにする。その上で、実習施設を選択し、より専門的に学ぶことで就職に結びつける。
学 び の キーワード	飼育法、給餌、排泄、健康管理、温度、湿度、飼料管理、動物舎（施設、付帯設備）、引継ぎ、指導 挨拶、言葉遣い（言葉の遣い分け）、身だしなみ、接客、コミュニケーション
準備学習及び復習の内容・履修条件	実習先で習った事をメモに残しノートを作成する。それを見返し実習先でミスをしないようにする。
授業方法	観光牧場では、家畜や馬などの大動物からエキゾチックアニマルについての飼育管理を屋内外で学ぶ。 アニマルカフェでは、エキゾチックアニマルや爬虫類、猛禽類を中心に飼育管理を屋内で学ぶ。 水族館では、淡水魚を中心に魚類の飼育・展示について学ぶ。 全ての実習先で、接客やコミュニケーション、企業での仕事の流れを学ぶ。 実習先によっては、1年生への引継ぎ・指導を行う。
成績評価基準	実習授業への出席、レポートの提出で評価をする。授業内容はスケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	授業内容
1	実習①
2	実習②
3	実習③
4	実習④
5	実習⑤レポート確認
6	実習⑥

7	実習⑦
8	実習⑧
9	実習⑨
10	実習⑩レポート確認
11	実習⑪
12	実習⑫
13	実習⑬
14	実習⑭
15	実習⑮レポート確認
16	実習⑯
17	実習⑰
18	実習⑱
19	実習⑲
20	実習⑳レポート確認
21	実習㉑
22	実習㉒
23	実習㉓
24	実習㉔
25	実習㉕レポート確認
26	実習㉖
27	実習㉗
28	実習㉘
29	実習㉙
30	実習㉚レポート確認
31	実習㉛
32	実習㉜
33	実習㉝
34	実習㉞
35	実習㉟レポート確認
36	実習㊱
37	実習㊲
38	実習㊳
39	実習㊴
40	実習㊵レポート確認
41	実習㊶
42	実習㊷
43	実習㊸

44	実習④④
45	実習④⑤レポート確認
46	実習④⑥
47	実習④⑦
48	実習④⑧
49	実習④⑨
50	実習④⑩
51	実習④⑪
52	実習④⑫レポート確認

就職対策実践講座 I

AC コース専門科目 1年 後期 28時間 1単位 実習 必修

講師 葛西宜宏

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宜宏】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1年生 ACコース
学習目標	オープンキャンパスを通して、就職対策講座で学んだ接客対応を実践し、社会で通用する技術を学び、サービス精神を理解する。
学 び の キーワード	接客 接客 あいさつ 言葉遣い コミュニケーション
準備学習及び復習の内容・履修条件	オープンキャンパスの事前情報を確認しておくこと。 終了後に設定した課題の自己評価を行うこと。評価はレポートとして提出をする。
授業方法	オープンキャンパスへの参加を授業としている。オープンキャンパス終了後にレポートを担当教員へ提出すること。
成績評価基準	出席 30%。レポート提出・実習内容評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践
2 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践
3 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践 報告 連絡 相談
4 回	挨拶 言葉遣い 笑顔 接客対応の実践 報告 連絡 相談

就職対策実践講座Ⅱ

AC コース専門科目 2年 前期・後期 63時間 2単位 実習 必修

講師 葛西宜宏

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宜宏】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	2年生 ACコース
学習目標	就職対策実践講座Ⅰから、更に仲間同士でのコミュニケーション、教員（上司に相当）とのコミュニケーションを通して、社会での自分自身の立場を理解しながら目的を果たせるか実践を通して習得するとともに、1年への指導を行う。
学 び の キーワード	接遇 接客 あいさつ 言葉遣い コミュニケーション 指導
準備学習及び復習の内容・履修条件	オープンキャンパスの事前情報を確認しておくこと。 終了後に設定した課題の自己評価を行うこと。評価はレポートとして提出をする。
授業方法	オープンキャンパスへの参加を授業としている。オープンキャンパス終了後にレポートを担当教員へ提出すること。
成績評価基準	出席 30%。レポート提出・実習内容評価 70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	
1	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
2	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
3	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
4	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
5	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
6	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
7	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
8	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談
9	挨拶 言葉遣い 笑顔 接遇対応の実践 報告 連絡 相談

水族館学 I

AC コース専門科目 1年 前期・後期 42時間 3単位 講義

講師 伊東二三夫

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【伊東二三夫】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1年生 ACコース
学習目標	水族館の目的・方針・意義などについて理解する。
学 び の キーワード	水族館とは、水族館の歴史、水族館の目的
準備学習及び復習の内容・履修条件	復習し、不明点を洗い出して質疑応答を積極的に実施する。
授業方法	講義はホワイトボードによる記述式とし、必要な資料は随時配布する。都度、QA を実施し、不明点が生じない体制とする。
成績評価基準	出席・聴講・QAなどを基準とし、総合的に判断する
備考	
授業回数	授業内容
1 水族館総論	水族館とは何かについて理解を深める
2 歴史の歴史と変遷	過去の水族館を主体的にとらえ、水族館の未来への展望を理解する
3 水族館の目的	水族館の存在意義について理解する
4 専門用語	水族館で使用する主要単語を理解する
5 種の多様性	生態系・種・遺伝子のレベルでの意味・保護について理解
6 種の保存	生息・生育する、又は、外国産の希少な野生生物を保全について理解する
7 教育・環境教育	人間と地球環境とのかかわりについて理解を深める

水族館学Ⅱ

AC コース専門科目 2年 前期・後期 78時間 5単位 講義

講師 伊東二三夫

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【伊東二三夫】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	2年生 ACコース
学習目標	水生生物飼育展示に関して、システム・生態などについて理解する。
学 び の キーワード	動物の生態をよく把握し、健康を保つことなどについて、最も重要な役割を理解する
準備学習及び復習の内容・履修条件	復習し、不明点を洗い出して質疑応答を積極的に実施する。
授業方法	講義はホワイトボードによる記述式とし、必要な資料は随時配布する。都度、QAを実施し、不明点が生じない体制とする。
成績評価基準	出席・聴講・QAなどを基準とし、総合的に判断する
備考	
授業回数	授業内容
1 魚類総論	魚類とは何かについて理解する
2 魚類の定義	意味や解説、類語を理解する
3 魚類の生理学	生体防御、生殖、内分泌など進展著しい生理学分野を理解する
4 魚類の生態学	魚類の社会のしくみや社会的な関係を理解
5 分布と生息環境	すみ場所、生息場所、など、さまざまな生物学の概念を理解する
6 繁殖・発生・餌料	生物による、交尾・産卵・育児などの繁殖行動を理解する
7 進化と系統	遺伝的な変化によって影響を受けるさまざまな生物の変化を理解する
8 施設管理・危機管理	飼育機器・設備管理、緊急時対応について理解する
9 魚類の分類	魚綱の単系統群・側系統群について理解する
10 収集・輸送・保存	「水量」、「水質」、「水生生物」、「水辺地」の要素について理解する
11 濾過システム	固体の粒子を液体や気体から分離する操作について理解する
12 魚類の病気	水生生物に発生する病気・症状や原因、対策、治療方法について理解する

動物園学 I

AC 専門科目 1年 前期・後期 132 時間 9 単位 講義

講師 葛西宣宏・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏含む 2 名】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1 年生 AC コース
学習目標	近年、動物園の域外保全の役割が増していくなか、教育普及事業の充実もより一層増して求められている。動物園を利用する来園者もリピーターが増加し、学校関係の利用も、校外学習やキャリア教育の一環での利用が日々増加している。利用者に対しリアルタイムで正確な情報提供のできる知識や作文能力、対応能力の育成を目指す。
学 び の キーワード	動物園の歴史 法律 国際条約 協定 規則 動物園水族館協会 異常行動 命名法 分類学 個体識別 記録 動物福祉 エンリッチメント 繁殖 保全 導入 健康管理 飼料 動物園研究 標本 自然保護 輸入 ハズバンダリートレーニング 利用者実態調査
準備学習及び復習の内容・履修条件	配布される教科書を通読しておくことが望ましい。板書した講義内容は必ず復習をしておくこと。
授業方法	全ての講義はホワイトボード・映像等を利用して板書される。必要に応じて資料を配布するが教科書に基づいて行う。原則として学期末試験を実施して学習深度の向上を図る。必要に応じて段階的な理解を深めるために中間試験を実施する場合もある。
成績評価基準	試験において学びのキーワードを理解していること。講義への出席 30%、期末試験 70%で評価する。授業内容はスケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備 考	
授業回数	授業内容
1 動物園学総論	人と動物の関わり、動物の家畜化、動物園の萌芽・歴史
2	わが国の黎明期、明治・大正時代、昭和初期の動物園
3	動物園の役割の変化 動物園の哲学
4	動物の権利と福祉 動物園の理念と倫理
5	動物園を取り巻く法規制 各国の法律と制定過程について
6	国際条約 協定 規則

7	EU の動物園の関係法令
8	英国における法規制とガイドライン
9	各国の動物園協会：EAZA AZA WAZA 等
10	EU 圏以外の動物園に関する法律
11	日本における関係法令及び条約・協定・規則
12	動物園生物学（動物学、野生動物飼育学）
13	動物園生物学の研究動向 研究体制
14	分類と分類学 自然（系統）分類と人為分類
15	現在の分類方法 新しい分類学の流れ DNA 分析による分類
16	分類の階級 種概念 亜種と種と種分化の関係
17	国際命名規約（学名） 二名式命名法の原則他の原則
18	脊椎動物の分類 分類例とその特徴 分類体系
19	両生綱（類）・爬虫綱（類）類の特徴と分類体系
20	鳥綱（類）類の特徴と分類体系 哺乳綱（類）の特徴
21	生理（哺乳類、鳥類、両性・爬虫類）
22	生態 動物生態の理解 適切な飼育環境の実現

動物園学Ⅱ

AC コース専門科目 2年 前期 120時間 8単位 講義

講師 葛西宣宏・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏含む2名】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	2年生 ACコース
学習目標	展示動物の福祉、環境エンリッチメントをふまえた展示理論、手法、手技の習得と展示スペース内の植物（高木、中木、低木、下草）の選定及びレイアウト例を習得する。
学 び の キーワード	展示 計画と実施 基本構想と基本計画 展示手法 展示技法哺乳類の展示 鳥類の展示 両性・爬虫類の展示
準備学習及び復習の内容・履修条件	教科書、配布した印刷物の通読および文中の専門用語に関して事前に検索等を行い、十分な理解を求める。
授業方法	講義はホワイトボード・スライドを用い行う。基本教科書のレジュメに沿って講義を行うが、法令・条例改正等が行われた場合、別途資料として配布を行い、改正後のものを使用する。
成績評価基準	試験における得点及び講義中の想定テーマに対する問題解決に向けた考え方、姿勢等総合的に判断を行う。
備 考	
授業回数	授業内容
1 動物園展示総論	展示とは 展示の変遷 展示のストーリー性
2	ハーゲンバックとパノラマ展示 ブロンクスとハビタット展示
3	ランドスケープ・イメージョン展示 動物展示の流れ
4	飼育と展示 展示と解説 動物園のサイン
5	展示計画と実施 構想から完成まで 基本構想と基本計画
6	基本設計 展示の構成要件（動物、植物、水場、擬岩）
7	展示手法 分類学的展示 地理学的展示
8	気候区分別（バイオーム）展示 生息場所別（ハビタット）展示
9	テーマ別展示 生態学的展示（行動学的展示、環境展示）
10	形態学的展示（適応放散などによる形態相似動物展示）
11	課題展示（家畜原種 種の保存 エコシステム）
12 子ども動物園	対象別展示 動物園教育

13	動物園教育の目標と評価
14	動物園教育の教授・学習論
15	情操、生活科対応 障がい者対応
16	動物のふれあい ハンズオン展示 実験展示
17 展示例	種の展示（単独種・種の比較）
18	群れ展示（社会性動物の群れ飼育）
19	混合展示 複合パノラマ展示 生息環境再現展示
20 展示技法	植物 擬岩と植栽 池とぬた場 来園者との隔離

動物園学Ⅲ

AC コース専門科目 2年 後期 96時間 6単位 講義

講師 葛西宣宏・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	2年生 ACコース
学習目標	動物園は老若男女、不特定多数の方が利用する施設になる。来園者が安心して安全で快適に過ごせる時間を提供することは最優先事項である。職員にとっても、安全な職場でなければならない。そのため日ごろよりリスクの洗い出し、対応マニュアルの作製と定期的な訓練が重要となる。この単元では動物園での危機管理に関し、リスクの種類、対応、関係機関との連携等リスク・マネジメントについて学び、労働安全衛生の重要性の認識を持たせ、対応する職員としての危機意識の醸成を促す。
学 び の キーワード	リスクの種類 動物の脱出 動物による事故 感染症 自然災害 火災・機材の故障・設備破損・施設の劣化 リスク・マネジメント
準備学習及び復習の内容・履修条件	教科書、事前配布印刷物の通読。各自での資料収集を行い、メディア等で取り上げられた事例について原因、対応等を想定したレポートの作成を行う。
授業方法	スライド、ホワイトボードを用い行う。公益社団法人・日本動物園水族館協会発行のさまざまな過去の事例を紹介した資料を配布し、各自で対応を想定し思考し文章にまとめる。
成績評価基準	後期試験における得点及び節目に行う、レポート作成の内容により評価を行う。
備考	
授業回数	授業内容
1 危機管理	リスクの種類 動物の脱出 動物による事故
2	感染症 自然災害 動物舎の経年劣化・破損
3	事故・違法行為
4	救護の優先順位 危機管理体制 緊急連絡網
5	対応マニュアル 訓練
6	動物による職員の事故防止 観客の事故防止 脱出防止
7	安全対策を含めたトレーニングについて

8	安全対策を含めたトレーニングについて
9	感染症対策 共通感染症対策（従事者、来園者）
10	動物・施設対策 危機管理プラン
11	関連法規 動物園の消毒
12	動物舎内の消毒 放飼場内の消毒 担当者の消毒
13	触れ合いにおける来園者の消毒
14	輸送箱の衛生管理
15	消毒薬の使用上の注意
16	博物館における施設管理・リスクマネジメントまとめ

動物飼育実習 I

AC コース専門科目 1年 前期・後期 180時間 6単位 実習 必修

講師 葛西宣宏・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏含む2名】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	1年生 ACコース
学習目標	校内飼育動物の適正飼育管理法の習得。日常の飼養管理を通して異常の早期発見のポイント、初期対応について学び、個体識別・個体データの記録・保管・管理についての実践。
学 び の キーワード	飼育法 給餌 排泄 健康管理 温度 湿度 飼料管理 特殊作業 飼育環境整備 エンリッチメント 飼料管理 事業計画
準備学習及び復習の内容・履修条件	国内法・条例で規定のないエキゾチックアニマル等の取扱いについて、ひろく世界標準として認識されているアメリカ国立衛生研究所（NIH）の飼育基準に準拠した飼育環境・飼育管理を学ぶ。輸送や移動に関しては、国内法（鳥獣保護法、文化財保護法、種の保存法等）の規定を学び、日常業務の基礎に法的意識をもち、動物福祉、コンプライアンスを意識して業務にあたる。輸送規定も国際航空輸送協会（IATA）作成のものを基本に、各種動物の規格を学び、輸送箱（クレート）の作製を行う。
授業方法	小型、中型哺乳類（小型ネコ科、カウウソ、レッサーパンダ、ハクビシン）の放飼場内の木組みをレイアウトし自然木を電動工具等を用い裁断し、番線でくみ上げ、作製する。また、ケージ内で飼育する小型鳥類、爬虫類の止まり木・木組みのレイアウトを行い裁断、ビス止めを行い作製する。どちらも飼育動物福祉・安全衛生対策を踏まえ作製する。 輸送箱は輸送規定（IATA）を背景に各種動物に合った構造、強度のものを電動工具等を使用し実際に作製する。
成績評価基準	試験により法規制、飼育環境・飼育管理の国際標準の理解度を確認し実技に関しては、チームでの行動、態度などを総合的に判断、評価する。
備考	授業 6時間×20回＝120時間＋朝夕飼育 2時間×30回＝60時間
授業回数	授業内容
1	止まり木・木組み作製（ケージ内、鳥類）
2	止まり木・木組み作製（ケージ内、鳥類）

3	止まり木・木組み作製（ケージ内、爬虫類）
4	止まり木・木組み作製（ケージ内、爬虫類）
5	止まり木・木組み作製（ケージ内、小型哺乳類）
6	止まり木・木組み作製（ケージ内、小型哺乳類）
7	標本作製Ⅰ（草食獣糞タッチ標本・教材）
8	標本作製Ⅰ（草食獣糞タッチ標本・教材）
9	標本作製Ⅱ（糞内容物標本）
10	標本作製Ⅱ（糞内容物標本）
11	足環等作製・装着（個体識別カラーリング）
12	巣箱作製（原材料、組み立てキットを使用）
13	巣箱作製（原材料採寸、カット、組み立て）
14	巣箱作製（樹皮付き丸太より樹洞を作製）
15	輸送箱作製 小型鳥類
16	輸送箱作製 小型鳥類
17	輸送箱作製 ペンギン類
18	輸送箱作製 ペンギン類
19	輸送箱作製 小・中獣類（イタチ・アライグマ科）
20	輸送箱作製 小・中獣類（イタチ・アライグマ科）

動物飼育実習Ⅱ

AC コース専門科目 2年 前期・後期 240時間 8単位 実習 必修

講師 葛西宣宏・野瀬修央

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【葛西宣宏含む2名】動物園/水族館における動物の展示・繁殖・研究・解説・飼育管理
学科・クラス指定等	2年生 ACコース
学習目標	動物福祉に配慮した飼育環境の提供・維持、来園者に対する情報提供など直接動物担当者が行う業務も多様化してきている、飼育動物の多様性を継続・維持し情報提供者として理論を踏まえた手技・手法の習得。 個体管理の基礎となる、トランスポンダーの埋め込み、動物交換の重要な要素となる輸送箱の作製。質の高い飼育環境の提供目的とする空間利用法（木組み・止まり木、巣箱等）、飼育動物の情報提供時の副教材（標本類）の作製。
学 び の キーワード	飼育法 健康管理 温度 湿度 特殊作業 飼育環境整備 個体管理動物の愛護及び管理に関する法律 展示動物等の飼養及び保管に関する基準 動物輸送基準（IATA）
準備学習及び復習の内容・履修条件	テキスト、最新法令関係の印刷物の配布を行い、事前の通読を前提とする。体を動かし、工具類使用が伴うので危険性排除のため十分な体調管理を求める。
授業方法	理論・法令関係を座学で行い、後校内で実技を行う。
成績評価基準	理論・法令関係は筆記試験で行い、実技は実習中の取り組み、協調性、計画性等を総合的に判断する。
備 考	授業 6時間×28回＝168時間＋朝夕飼育 2時間×36回＝72時間
授業回数	授業内容
1	止まり木・木組み作成Ⅰ（放飼場・オープンスペース 躯体部取り付け大型鳥類）
2	止まり木・木組み作成Ⅰ（放飼場・オープンスペース 躯体部取り付け大型鳥類）
3	止まり木・木組み作成Ⅰ（放飼場・オープンスペース 躯体部取り付け大型鳥類）
4	標本作製Ⅰ（卵樹脂型どり）

5	標本作製Ⅰ（卵樹脂型どり）
6	標本作製Ⅱ（擬卵・石膏流し込み）
7	標本作製Ⅱ（擬卵・石膏ばり取り）
8	止まり木・木組み作製Ⅱ、小型哺乳類（放飼場、躯体部取り付け）
9	止まり木・木組み作製Ⅱ、小型哺乳類（放飼場、躯体部取り付け）
10	止まり木・木組み作製Ⅱ、小型哺乳類（放飼場、躯体部取り付け）
11	標本作製Ⅲ（骨格標本、剥皮、筋肉・腱除去）
12	標本作製Ⅲ（筋肉・腱除去）
13	標本作製Ⅲ（溶剤作製・肉溶解）
14	標本作製Ⅲ（肉溶解・骨格撮影）
15	標本作製Ⅲ（肉溶解・水洗、乾燥）
16	標本作製Ⅲ（樹脂型どり、油粘土型どりベース作製）
17	標本作製Ⅲ（粘土型どり、樹脂型どり）
18	標本作製Ⅲ（骨接着・組み上げ、ホットメルト接着）
19	標本作製Ⅲ（骨接着・組み上げ、ホットメルト接着）
20	止まり木・木組み作製Ⅲ、大型哺乳類（丸太ボルト固定）
21	止まり木・木組み作製Ⅲ、大型哺乳類（丸太ボルト固定）
22	止まり木・木組み作製Ⅲ、大型哺乳類（丸太ボルト固定）
23	輸送箱作製Ⅰ 小型哺乳類
24	輸送箱作製Ⅰ 小型哺乳類
25	輸送箱作製Ⅱ 大型鳥類（ツル類、フラミンゴ）
26	輸送箱作製Ⅱ 大型鳥類（ツル類、フラミンゴ）
27	輸送箱作製Ⅲ 大型有蹄獣（イノシシ、ヒツジ）
28	輸送箱作製Ⅲ 大型有蹄獣（イノシシ、ヒツジ）

トリミング実習

AC コース専門科目 1年 前期・後期 140時間 5単位 実習 必修

講師 佐山百合子 森香 内田英和 大田ひとみ 鈴木彩乃 富山幹太

実務経験のある教員等による授業科目	有
実務経験の内容	【佐山百合子含む6名】トリミングサロンにおけるトリミング業務
学科・クラス指定等	アニマルケアコース1年
学習目標	NAVA トリマー3級ライセンスの取得を目指す。
学 び の キーワード	ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり、シャンプー、リンス、ブロー、ハサミ、アタッチメントコーム
準備学習及び復習の内容・履修条件	ペットスタイリスト入門Iで学んだ事をよく復習しておく 動物総合基礎実習で学んだ事をよく復習しておく
授業方法	実際に手本を見せながら指導していく
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。実習への出席30%、期末試験70%で評価する。
備 考	授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。 授業内容は、個々の技量により変更することがある
授業回数	
9月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
10月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
11月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
12月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応

1月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応
2月	グルーミング（ブラッシング、コーミング、耳掃除、クリッピング、爪切り、肛門腺しぼり）シャンプー、リンス、ブロー、ハサミの練習、足回りカット、耳・尾カット、受付対応